



【仙台圏】太白区

仙台西多賀病院



国立病院機構 仙台西多賀病院様は、筋ジストロフィー・神経難病・重症心身障害児（者）・骨・運動器疾患などを中心として、地域のニーズに根ざし患者目線に立った安心して質の高い医療の提供を目指しております。さらに、新たな治療法の開発を目標とした臨床研究を進めておられます。

この度、仙台西多賀病院様のご協力により、来院されている患者さんへ「みやぎ医療福祉情報ネットワーク」への加入案内活動を8月末より始めています。

加入案内コーナー

開設にあたっては、病院側のご配慮により1F正面フロア東側に加入特設コーナーを設けていただきました。コーナーには紹介ポスター掲示や紹介資料、加入申込書類等を用意しております。来院患者さんが手軽に手に取られるように配置していただきました。毎週火曜日と木曜日の午前中を中心に、来院患者様への加入活動を行っております。



案内資料には院長先生からのメッセージが添えられています

患者様へのご案内資料には、院長武田先生のメッセージが添えられており、加入を検討されている方は、安心してご加入にいただいております。

東日本大震災の際には多くのカルテやレントゲン写真などが津波で流され永遠に失われてしまいました。これを教訓に各医療機関の医療情報をクラウド化して共有・活用するという画期的な事業が、全国に先駆けて宮城県で始まりました。それがMMWINです。MMWINに加入して頂くと、当院での診療情報を県内の他の医療機関でも参照できる様になり、重複した無駄な検査をせずに一貫した記録に基づいた正しい診療を行う助けになります。この機会に是非参加をご検討下さい。



独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院 院長 武田篤

院長先生からのメッセージ



発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp



当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



関連病院とのコンサルトに MMWIN眼科連携が活用されています

東北大学大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座眼科学分野 教授 中澤 徹先生

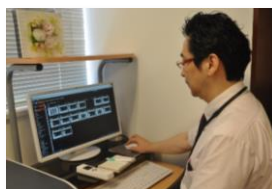


中澤 徹 先生

眼科データ共有による円滑なコンサルト

MMWIN眼科連携は、視力、眼圧など基本的なデータからOCTや視野といった画像データまで、データベースにあがるものはすべて見ることができ、遠隔の場においても、同じ患者情報を参照し合い、その所見について議論することができる環境となっています。

MMWIN眼科連携が導入される前は、学会や講演会の場に写真や資料等を持参し、話ができるチャンスを待ってケース相談をするか、または電話で相談することが主となっていました。電話での相談の場合、お互いに共有する資料が十分でないまも口頭での説明となってしまう、ポイントとする点が先生によって異なるということもありましたが、現在はお互いに画像を見ながら話すことが可能となり、非常にスムーズにコンサルトできるようになりました。



MMWINを活用したコンサルトの様子

この環境を利用して、週に1回、東北大学病院眼科医が診療に伺っている病院と、コンサルトの機会を持っています。また、近隣の開業医の先生との連携も頻繁に行っています。具体的には、主に新規の患者さんを対象に、MMWINのデータを見ながら主治医の先生にプレゼンしていただき、スクリーニングし、診断することを行っています。

若手の先生が規模の大きい病院へ赴任している場合、バックアップすることで先生方の診療の向上にもつながりますので、困っている症例のカルテ診療や医局全体でのケースディスカッションのプレゼンの際にもMMWINのデータを活用しています。こういった使い方ができるところが素晴らしいと思います。

遠隔診療への展望

MMWINの遠隔カンファシステムを利用した遠隔診療ができるようになれば、一般診療ではわからない症例について専門医によるコンサルトの場が持てるようになると思います。地域の拠点となる病院を決め、開業医の先生、関連病院の先生が拠点病院に患者さんを紹介し、そこに遠隔診療の環境があれば、コンサルトする時間を作りやすくなると思います。

更なる活用のために

緑内障の患者さんは使用してはいけない薬がたくさんありますが、服薬の状況を患者さんに聞いてははっきりとわからない際、MMWINで病名や処方内容等の情報を得ることが可能となります。また、糖尿病のため受診している患者さんに糖尿病網膜症があるかどうかを知りたい際、MMWINで眼底写真と診断内容を確認すれば、診療科をまたぐ紹介状のやりとりが不要となる場合もあります。医師にとって重要な情報をMMWIN加入によって得られるということは、大きな価値があるのではないかと思います。

今後は、眼科の先生が他科の何を知らたいのかといった情報を更に集め、MMWIN上の目立つところにリスト化する環境を作っていく必要があると思います。ユーザー側の医師が何を望むか、そのデータを共有することで宮城県の診療レベルが上がる、そういった流れをMMWINが頭を取り、盛り上げていくことが次のステージになると期待しています。

『MMWIN透析連携システム』 を活用した病診連携



【仙台圏北部】大和町

吉岡まほろばクリニック
透析室 臨床工学技士長 武田 将史様

9月7日に開催した「透析連携のためのMMWIN活用Web講座」にてご講演をいただいた、吉岡まほろばクリニック武田技士長にMMWINを活用した災害時の病診連携についてお話を伺いました。

Q MMWINに透析データを挙げて頂いているが、その理由、また期待していることをお聞かせください。

A 第一に患者さんの情報の受け渡しはFAX運用が一般的になっています。しかし、時間も手間もコストも掛かるため、FAXからMMWINネットワークシステムに変わればこういった問題が解消できると思います。また、受け入れ側の病院がMMWINネットワークシステムでの透析情報連携に変えたとした時 に対応できるようにとの準備も兼ねています。



武田 将史技士長

Q 透析データをアップする作業はどなたがされていますか？

A 一日の終了業務に組み込まれており、スタッフ全員のルーティンワークとしてデータを手動ワンクリックでアップロード出来る仕組みになっています。

Q 昨年より大崎市民病院との災害を想定した連携訓練を行っておられますが、この件に関して教えてください。

A 過去2回水害発生時に大崎市民病院、JCHO仙台病院に透析患者さん50~60人を受け入れて頂いた際、透析情報の送信にスタッフ総出で、まる一日かかった経験があります。その意味からも平時から災害時に備えることが重要であると思っています。また、MMWINのネットワークシステムには、まだまだ伸びしろがあると感じており、協議会名が「医療福祉情報ネットワーク」とあるように、災害拠点病院と我々クリニックの透析情報連携の橋渡しになることを望んでいます。それがMMWINのあるべき姿ではないかと思っています。

我々のような受け入れて頂く側のクリニックと、受け入れ側の災害拠点病院が一緒になってMMWINの運用に積極的に進んでいくことが今後望まれます。それが患者さんにとってのメリットになり、我々の効率化、大幅なコスト削減に繋がりますので、できれば宮城県全施設での導入がなされればと感じています。

以上の事により、MMWINスタッフの更なるネットワークシステムのサービスや事例紹介の啓蒙活動を期待しております。

【大崎圏】三本木 近江医院 院長 近江 史人先生

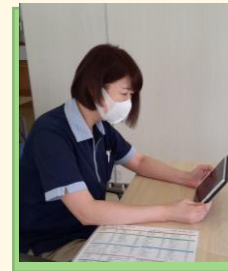
2021年4月より、近江徹広先生のご子息 史人先生が院長に着任されました。今後、MMWINを活用した医療連携について、ご期待を寄せられています。

タブレットはたまに参照しています。

以前、患者さんの方から「大崎市民病院で検査したから、後で見て」と言われました。普通の血液検査でしたが、「自分の検査結果をかりつけ医に把握して貰える」という安心感が患者さんにはあるようです。自分としても、他院との連携の際、紹介状以外の情報や治療の詳細についてもう少し知りたかったり、逆に自院から紹介した患者さんのその後の経過が気になったりする時があります。先生方も忙しく、なかなか「教えてください」とは言いづらい。そんな時にその患者さんがMMWINに入っていれば、当院にとっても大きなメリットになります。

今後は、加入者が増えたといいですね。まずは自分が「見たいな」と思った患者さんに、MMWINのパンフレットや加入申込みの封筒を手渡してみようかなと思います。患者さんがもっと簡単にMMWINに入れるといいですね。

タブレット



千葉 千絵相談員

活用施設の声



近江 史人先生

【石巻圏】広瀬 介護老人保健施設 長山 相談員 千葉 千絵様

タブレットを活用した参照事例について、千葉相談員よりお話を伺いました。

MMWINのタブレットを使って、入居される利用者さんの病歴などを見たり、入退院時の経過を確認したりしています。ご家族からの聞き取りや、病院から頂いた情報だけでは分からなかった過去の情報まで、MMWINを見ることによって詳しく知ることが出来るので助かります。

先日、施設からA病院に入院した方が、B病院に転院して手術を行ない、またA病院で治療したのち、退院して戻ってきました。A病院からは退院時の情報を頂いたのですが、後からMMWINを参照することで、転院した際の病院間のやり取りや手術の詳細、入院中の内服薬、点滴の種類など、より詳しい情報を知ることができました。通常は病院間でしか見られない紹介状を、施設でも参照できるのは便利ですね。

新しく入所される利用者さんとそのご家族には、MMWINのパンフレットを渡し、「病院での情報や過去の病歴を知りたいのでご加入ください」と加入のご案内をしています。殆どのご家族がその場で加入申込書を記入してくれます。これまでは郵送でしたが、タブレットの機能を使って簡単に申し込みが出来るなら、その場で申し込みが出来ますね。今後は更に利用者さんを増やし、活用していこうと思います。